

＜生徒＞ ・ 結果 ● 分析

- ・「授業はわかりやすい」が、低下。（76,8%→63,2%）
- ・「学校に行くのが楽しい」が、低下。（71,5%→62,8%）
- ・「先生の指導には納得できる」が、低下。（52,2%→44,9%）
- コロナ禍の状況において、学校生活が普段通りにできず、臨時休業や学年閉鎖等になり生活リズムが大きく変わって大きく戸惑いがあり、すべてにおいて低下しているが、大きな低下に繋がっていないのは、教員の熱心な指導や新たな取り組みの結果と考える。
- ・「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」が、向上。
(85%→86,3%)
- ・「いじめや私たちが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」が、横這い （79,9%→79,6%）
- ・「日頃から清掃活動にしっかり取り組み、校内美化に取り組んでいる」が、低下。（70,8%→68,6%）
- コロナ禍の状況が長く続いている中で、引き続き命の大切さを学んでいる。また、コロナウイルス感染等に不安を抱えている生徒が多いなか、教員がしっかり生徒を支えている結果と考える。
- 全体的に、多くの項目で数値は低下している。コロナ禍で、長期間学校生活が普段通りに送れていないことが大きな原因である。しかし、数値的には低下しているが、様々な規制等をよく守り、
- 楽しく学校生活を送っている。

＜保護者＞ ・ 結果 ● 分析

- ・「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」が、向上。
(66,7%→67,8%)
- ・「子どもは学校に行くのを楽しみにしている」が、低下
(76,7%→75,1%)
- ・「学校はいじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」が、低下。
(86,1%→83,7%)
- ・「学校は子供に生命を大切にすることや社会のルールを守る態度を養おうとしている」が、低下。
(89,9%→85,8%)
- 家庭内で生徒が学校生活について保護者と話をよくし、しっかり伝えている結果と考える。（コロナ対応等）
- 「学校の授業参観や学校行事に参加したことがある」のみ数値がコロナ禍で大きく下がっており、その他の項目においては大きく

＜教員＞・結果 ●分析

- ・「普段から清掃が行き届いており、校内美化に努めている」が、向上。
(81%→82,5%)
- 教員全体の意識が高くなった
- ・「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている」が、
大きく低下。
(82,8%→71,9%)
- ・「授業内容について、他の教科の担当者とも話し合う機会がある」が、
大きく向上
(53,4%→64,9%)
- 学校が臨時休業・時差登校等で、教員もテレワークをしており、他の
教員との接する機会が少なくなった。また、コロナの影響で通常より
も仕事内容（朝の検温・放課後の一斉消毒等）が増え時間が足りない
のが原因と考える。